

道

～先輩が言っていたことを忘れないで、いま未来手帳に書き込むか、メモしておこう～



進路講演会「先輩の話を聴く会」を終えて～感想より～

7月5日の6時間目に大阪青凌高校、山田高校、茨木西高校、春日丘高校、京都女子高校の3年生の先輩方をおよび、進路講演をしていただきました。感想用紙にびっしりと感想を書いていた人がたくさんいました。その中から一部紹介。

・大切な大学受験勉強の時間を割いていただいてありがたかったです。計画をたてて勉強するというのが大切だと思った。それに、間違えた後の生かす大切さもわかった。夏休みは、質を大切にしながらメリハリをつけて勉強したいと思った。3年後には自分も胸を張って自分の高校の話ができるようにしたいです。

・先生から聞く話だけだと分からないこともたくさんあるけど先輩の体験談はリアルだし、具体的な話をきけるからすごくためになりました。みんな「勉強していなかった」とか言いながら「平日4時間勉強した」とか言っていて少し不安になります。今日の話で聞いたことを、勉強方法の参考にしようと思います。

・「テスト期間しか勉強していない」というのが自分と同じだった。佐藤さんの学力と勉強量は比例しない、受験前に一気にのびることもあるっていうのを聞いて、なかなか成績が伸びなくてもコツコツがんばろうと思った。

・高校生のお話は自分が思っていたよりもためになった。私は自由であると楽しいことだらけだと思っていたから、その裏には責任がともなくから大変だということがわかった。勉強時間は長いほうが良いと思っていたけど、長くするよりも、自分が何ができるようになったか、どれだけできるようになったかが大事だとわかった。これからは問題を解くだけじゃなくて解きなおしとかもちゃんとしようと思った。自分がやりたいことをするためにやらされているんじゃなくて自分から勉強したいと思えるようになると思った。

・ワークをやるだけでなく、そのあとの復習も大切っていういろんな先生たちから言われたりしたことがあるので、今日の話を書ききいてやっぱ大切なんだと改めて思いました。

・私は今日の話聴いて、受験勉強で大切なのはどれだけ長い時間やるのではなく、どれだけ効率よくコツコツやれるのかということを知りました。ちょっと遅いかもしれないけど、受験というものがはっきり形になって理解できた気がします。このお話は本当に良い経験になりました。コツコツ勉強したいと思います。

・高校受験への不安がたくさんあったけど、少し上向きな気分になれた。先輩が言っていたことを生かして高校選びをしたい。テストなどを解いて終わりにせず、ちゃんと何で間違えたのかななどを振り返るようにしたい。

・私はまだ行きたい高校が決まっていないので、何を目標に勉強したらよいかわからなかったけれど、今回の話を聞いて、勉強は受験のための、確かに大きいと思うけれど、将来、自分がやりたいことのためだったり、自分が挑戦することができる幅を広げることにもなると思いました。この先、行きたい高校や、やりたいことが見つかっても、勉強をしていなかったら、そもそも挑戦することすらできなくなってしまうと思ったので今からコツコツ勉強していこうと思いました。

・「まとめノート」というものを家に帰ってからやってみようと思いました。全部まとめるのではなく、間違えた問題のみをまとめるというのは、とてもよい方法だと思いました。これをすることによって、自分がどこをまちがえやすいのかわかりそうだなと思いました。誰かに言われたからするのではなく、自ら勉強するようにしたいです。



先輩が語ってくれたことを忘れないように、机の上にメモして貼ったり、手帳にメモしておきましょう。そして、この夏休みに怠けそうになったら思い出してほしいと思います。

以前に、進路学活でも載せましたが、ある先生からいただいたお話です。このお話の最後にある、大学の卒業式の日の話と同じような実体験話を別の先生からも聞きました。その話では、音楽関係の学校に入りなおしたそうです。親と子が同じベクトルで将来に向かうように、1学期の懇談前なので、もう一度、載せておきます。

『一流大学出身』というハンデ

今までの日本は、^{しゅうしんこよう}終身雇用（一度入社した人は、よほどのことがない限り、企業はクビにしない）・^{ねんこうじょれつ}年功序列（年をとるにしたがって会社での地位や給料が上がっていく）が常識であった。だから、いい高校、いい大学へ進学し、一流大学卒業というブランドを身につけ、いい会社に入ればそれで一生いい生活ができた。ところが今、そういう^{せいどくず}制度が崩れ、実力主義の世の中になってきたという。企業は本当に仕事のできる人材を求めようになり、必ずしも有名難関大学出身者が、有能な人物とは限らないことに気づいたのだ。そこで、^{していこうせい}指定校制（うちの企業は〇〇大学出身者しか採用しませんという方針）を^{はいし}廃止し、入社試験の内容も、ペーパーテストの学力だけでなく、もっとほかの見方をする企業が増えてきた。具体的に言えば、どこの学校を出たかは問題にせず、そこで何を学び、何をやってきたのかを問うようになったのだ。

それについてはこんな例がある。ある会社では一流大学出身の新入社員に対して、次のような話をしたという。「おそらく君たちは一流大学へ進学するために、一生懸命勉強してきたであろう。その努力は^{とつと}尊いものだ。しかし、そのかわりに大切なものを^{ぎせい}犠牲にしてきたことも事実だ。しんどいクラブ活動を^{けいえん}敬遠し、人のために働く委員会活動にも^{しょうきょてき}消極的で、時には当然の義務である掃除をさぼって勉強に打ち込んできた人もいるのではないか。今の会社はそんなような人物は求めてはいない。時には人の中心となり、時には人の^{かげ}陰に回り、仲間とともに仕事を進められる人材が必要なのだ。『たとえ失敗しても、もう一度あの人と一緒に仕事がしたい。』と、人から思われるような人間性を持った人物がほしいのだ。君たちは一流大学出身という^{じふ}自負を持ってこの会社に就職してきたことであろう。しかし、そのことが会社ではハンデになるということを知ってもらいたい。君たちがこれからこのハンデを克服していくことを期待する。」

これは嘘のような話だが、事実あったことだという。中学3年生の君たちは、今、自分の進路決定のためにいろいろな思いを持っていることだろう。しかし、どこの高校へ入るかということが問題なのではなく、そこで何を学ぶか、何をするかが問題なのだということを知っておいてもらいたい。

最後に、こんな話も聞いたので紹介しよう。

ある超一流と言われる大学を出た人が卒業式の日、「お父さん。お母さん。今日〇〇大学を卒業し、これであなただけへの義務は果たしました。明日からは自分のやりたいことをやっています。」と言って、翌日から^{ふくしよく}服飾の専門学校に入学し、中卒・高卒の人と肩を並べて勉強したという。

世の中は確実に変わってきている。

